＜情報政策課　主査　喜多（以下「喜多主査」）＞

ただいまから、北海道オープンデータ、官民ラウンドテーブルを始めます。まず開会にあたり、情報政策課のＩＣＴ推進担当課長の榎から一言ご挨拶させていただきます。

＜情報政策課　ICT推進担当課長　榎（以下「榎課長」）＞

情報政策課のＩＣＴ推進担当課長の榎でございます。

道では平成27年より、オープンデータの取り組みを推進しているところでございますが、まだ利用しやすいデータは少ない状況でございます。民間のニーズを的確にとらえて、積極的なデータの利活用促進するために、民間と同等の対話の場として本ラウンドテーブルを開催することといたしました。本日は三つの要望について民間の皆様からのご要望についてプレゼンテーションしていただき、道のデータ所管課と議論をしながら、データの公開につなげていきたいというふうに考えております。

なお本日の開催内容、結果につきましては、ホームページ及び北海道のオープンデータポータルにおきまして、オープンデータとして公表されますのでご承知おきのほどよろしくお願いいたします。

今回のラウンドテーブルは北海道オープンデータ推進協議会様と共催で、オープンデータ推進協議会には有識者の出席依頼、要望の周知などにご協力いただきました。大変ありがとうございました。それでは本日はよろしくお願いいたします。

＜喜多主査＞

進行を説明させていただきます。本日は要望が3件ありまして、1件1件ディスカッションをしていきます。まずは、データを要望された方から、どのようにデータを活用するのか、どのようにデータを公開して欲しいのかをプレゼンテーションしていただき、その後、道のデータは所管課からデータについて説明していただき、データの公開について質疑応答など検討を行っていきます。１件大体プレゼン10分程度、質疑30分の合計40分程度を予定しております。1件が終わったら、要望社回答社とも入れ替えます。

それでは、ファシリテーターと有識者の紹介をさせていただきます。

ファシリテーターの森町役場職員であり、内閣官房のオープンデータ伝道師でもある山形巧哉さんです。続いて有識者として、北海道オープンデータ推進協議会で技術顧問でもあります、酪農学園大学農食環境学部環境共生学部教授、金子正美さんです。続いて北海道オープンデータ推進協議会理事の林さんです。同じく理事の森さんです。よろしくお願いします。

ここからは、ファシリテーターの山形さんに司会をおまかせしますのでよろしくお願いいたします。

＜ファシリテーター　山形氏（以下「山形氏」）＞

それでは、私の方から第1回北海道オープンデータ官民ラウンドテーブルの進行を務めさせていただきます。改めまして山形でございます。本日はよろしくお願いいたします。

早速ですが、要望1、道有林における河川濁度調査データ、要望者は道総研さんの濱原様の方からですね、お話をいただき、その後、データ担当課の水産林務部森林環境局道有林課の皆様からお話をいただきたいなと思います。それでは濱原様、準備ができましたらお話お願いします。

＜北海道立総合研究機構エネルギー環境地質研究所　濱原氏（以下「濱原氏」）＞

こんにちは。北海道立総合研究機構エネルギー環境地質研究所の濱原と申します。よろしくお願いいたします。

本日は、森林室で行われている河川濁度調査の­­結果のオープン化の要望についてご説明させていただきます。

オープン化していただきたい情報は、森林室が実施している河川水の濁度調査結果で、過去から現在まですべてのデータをオープン化していただければと思っております。項目としては、濁度と調査日時、調査地点の位置情報のデータがCSVで公開されていると非常に使いやすいと思っております。また、これに付随して、流量とかの調査をしている場合は、そのデータも一緒にオープン化していただけると非常にありがたいと考えております。

後志総合振興局森森林室のデータはすでに北海道オープンデータポータルでＣＳＶの形でオープン化していただいております。他にはないのか調べたところ、他の森林室の調査結果もＰＤＦの形やグラフの形で公開されています。それぞれの森林室で公開している年度が違ったり、公開形式が違ったりしていますので、すべてのデータについてＣＳＶフォーマットでオープン化していただけると非常にありがたいです。

濁りのデータについて、各森林室の実施されている濁度調査の目的にもありますが、河川の水の濁りというのは、浄水や農業用水への施設、利水に影響するだけではなく、その下流の水産資源へ影響したり、景観上への障害を起こしたりと、私たちの生活に様々な影響をもたらします。これらについては各分野でもうすでに対策も実施されているところではありますが、その対策を効果的に実施していくためには、また、これからそういった対策を実施するためには、気候変動影響の視点も加味して対策を実施していく必要がありますので、将来的に河川の濁りがどうなっていくかという予測が必要になっていきます。この部分が我々の着目点になります。将来的に河川の濁りがどうなっていくのかということを予測するために、この河川濁度調査結果というのは非常に価値のあるデータとなっております。

我々は各森林室で実施されてきた調査結果を、大雨時に河川の濁度がどれだけ上昇するかを予測するシミュレーションモデルの精度向上、パラメーターの校正に活用したいと考えております。その予測の流れは、まず、降水量の分布、これは気象庁の出しているレーダー解析雨量だとかそういった情報なのですが、それを河川の濁度がどう変わるかを予測するシミュレーションモデルに入れ、調査地点の流量・濁度がどうなるかをひとまず予測します。これは予測した結果です。その結果について、それぞれの森林室が調査した結果と同じ時期、同じ地点の予測結果を整理し、比較します。最初の1回でこの２つが全く一致するのであれば大丈夫なのですが、そのようなことは絶対なく、大幅に違うことになります。大幅に違った場合にこのモデルの方のパラメーターを少しずつ動かし、また予測し、データ抽出し比較して、モデルのパラメーターを少し動かしてという作業をグルグルグルやり、このモデルの精度を向上したいと考えております。

この濁度予測モデルを何に使うかですが、これは先ほどから申しあげまていますように、気候変動による河川水の濁度の影響を予測するために用いたいと考えております。気候変動は身近に迫ってきています。世界の平均気温で、2100年には今から2.6度から4.8度上昇することが予測されています。また、北海道ではすでにこの100年で1.6度上昇しているということが札幌管区気象台から示されております。また気候変動は気温が上昇するだけではなく、雨の降り方も変化します。21世紀末には大雨や短時間強雨の頻度が増加する、つまり短時間に一気に大量の雨が降ることが増えるということが予測されています。こういった気候変動に適応していくために、北海道は昨年度、北海道気候変動適応計画を策定しまして、道内各地への適応を進めているところです。

我々道総研としましても、この気候変動の適応を各地で進めるためにこのような研究課題を立ち上げて今年度より実施しております。研究課題名は、気候変動による河川水環境の変化が地域に及ぼす影響の評価手法の構築と題しまして、河川水の濁度に着目し、将来大雨が増えたら河川水の濁度がどのぐらい変わり、変わった結果、その地域の生活、産業にどれだけの影響が出るかという情報を提供することを目指す研究課題になります。

この課題の中で、先ほどの濁度予測モデルに、国などで出されている気候変動の予測情報、これは気温がどう変わるか降水量はどう変わるかという情報ですけども、この情報を組み合わせて、各地域で雨の降り方がどう変わり、河川水の濁度がどうなり、生活産業用水への供給への影響があるのかないのかといった気候変動の予測評価情報を出すことを目指しており、この研究課題に活用させていただきたいと考えております。濁度についての説明は以上になります。

今回は、濁度の情報についてご説明しましたけども、他にも北海道では地道に観測を続けている、長年とっているデータとかそういったものがたくさんあると思います。そういったデータまずは公開していただけると、誰か必ず活用していただける方はいると思うので、そういった観測データの公開が進むことを願っております。以上です。

＜山形氏＞

濱原様ありがとうございました。担当課の方のですね、水産林務部森林環境局道有林課の皆様、現実的にはこちらのデータ、私も実は本日来る前に、このデータはこういうデータあるんだなと思って調べさせていただいたのですが、確かに濱原さんがおっしゃる通り、後志はもうすでにＣＳＶデータでしたが、あと渡島も上川など、他の場所も、すべてＰＤＦ。あとは、時期もちょっとまちまちの状況という感じではございましたが、実際、どうなんでしょう。もうすでにあるデータだから簡単に出せちゃうんじゃないかなっていうふうに思ったのですがいかがでしょうか。

＜道水産林務部道有林課　道有林整備係長　梅津（以下「梅津係長」）＞

私、水産林務部道有林課で森林整備担当しております梅津と申します。今日はどうぞよろしくお願いします。

今道有林で行っている河川水濁度調査の話からさせていただきたいんですけれども、資料にも載せていますが、河川の濁りの調査結果のデータ公表を通じまして、森林施業による撹乱が流域森林の環境へ及ぼす影響について、モニタリングを実施して検証することで流域環境の保全に資することを目的としています。

今現在は、北海道には森林室が13部局ありまして、それぞれの部局のホームページ上で、先ほど申された通りＰＤＦが中心なって、河川水濁度調査の結果を随時掲載しているところです。

その中で調査箇所だとか調査日時、濁度の数値、河口までの距離、川幅推移などが公開内容として一応定められてはいるのですが、先ほどお話あった通り、森林室単位で取りまとめ方だとか、公開方法、公開時期なんかが若干異なっているところです。

＜山形氏＞

そもそもこれは何で森林室ごとのホームページで掲載する必要性ってあるのですか？作業業分担してたから、各部局で掲載をしているだけっていう話なんですよね？

例えばなんですが、これを森林室ごとではなく、道有林課の方で取りまとめて掲載するとかっていうのは、やっぱり作業量的には結構厳しいのでしょうか？。

＜梅津係長＞

いろいろ考えてみたんですけども、（森林室ごとに）掲載する時期がそれぞれ異なっており、そのたびに情報もらって道有林課のホームページにまとめる形でアップするというのは、部局にとっても道有林課にとってもちょっと負担になるなと思います。

そうであれば、今現在ＰＤＦデータで、各部局のホームページで載せているので、ＰＤＦとあわせて、位置情報と濁度と、もう一つは水量・・・・

＜濱原氏＞

公開していただきたいのは、濁度とそのデータを取った日時とその位置の３つになります。

＜梅津係長＞

そうであれば現在、後志で載せているＣＳＶデータが大体網羅されてるような形になります。ＰＤＦのほかに、体裁を決めて、必要最低限のデータになるかもしれないですけど、あわせてＣＳＶとして公開することは可能という判断をしています。

＜山形氏＞

なるほど。それは各13部局でそれぞれ出すことは可能であろうと、今のところ見込んでいるっていうことですね。

そのデータを北海道オープンデータのポータルサイトっていうのがあるんですが、そちらの方に掲載していただくっていうのも可能？

＜梅津係長＞

どういう手法でやったらいいのかちょっとわからないんですけども・・・。

＜喜多主査＞

道庁のホームページのＣＭＳの仕組みとして、その課でしか編集できません。各森林室の調査時期がバラバラなので、それを道有林課が集めて、ＣＳＶにして道有林課のページに載せるのは道有林課の人しかできない。道有林課の人が負担になってしまう。

それであれば、それぞれの森林室の担当者がホームページにアップするとなると、各森林室のホームページで公開することになってしまった。

だけど今オープンデータポータルサイトがあるので、そこに「道有林濁度調査」というデータセットを作って、各森林室担当者がデータセットに対してそれぞれのＣＳＶ載せた方がいい。

利用する人は一括でダウンロードできるので便利になると思います。ただしフォーマット、列の名前とか並びとかは合わせてもらって、同じフォーマットでそれぞれの森林室からＣＳＶを上げてもらうというような形にすると、利用者1回でダウンロードできますので、その方が楽かなと思っていました。

＜梅津係長＞

オープンデータのポータルサイトにＣＳＶデータを掲載するときには、森林室の方でその処理が可能っていうことなんですか？なるほど。

それぞれのタイミングで掲載されることになるとは思うんですけど、あとは利用される方が、そのタイミングでデータを取ってもらうというようなイメージですね。

＜山形氏＞

素朴な疑問なんですけど。このＰＤＦのフォーマットである必要性って何かあるんでしょうか？何か条例か何かで決まっている？

＜梅津係長＞

いえ、そういうわけではないですね。

おそらく一太郎だとかワードで様式を示しててそれを使っていたということですね。

＜山形氏＞

正直言ってですね、割と道庁さんのデータってこう見ている限り、条例規則で決まっているのであればどうしようもないのかなっていうふうには思うのですが、割と独自様式でやられている場合とか、あと、見た目でデータを（PDFで）公開されている場合がすごく多いなって実際思っていて、新型コロナのサイトのデータについても、一部やっぱり紙というかＰＤＦで出たものをわざわざ打ち変えているっていう作業が発生している状況でデータを作る。

今の話を聞いていると、まさしく現場の方々がＰＤＦでフォーマットに則ってデータ作ったものをもう一度ＣＳＶに移し替えるっていうのは、それこそ手間なんじゃないかなと思って、それであればはじめからＣＳＶでそのフォーマットに打ち込んで調査としてやればいいというのであれば、それを出したらその業務が完了する。

正直言ってこのデータって興味のある人しか見ないですよね。一般の皆さんが見られるようなデータではなくてやっぱり研究だとか、利用したいという人たちが使うデータなのかなと。

内部の決裁はどうするのかっていう、ちょっとその辺の問題もあるかもしれませんけども、それもこのフォーマットに則ってなくても、エクセルの単票でいいのかなというふうに思いますし、そういう形で出していければみんな幸せなんじゃないかなって思ったのですが、その辺の業務の手法を変えるとかっていうのはいかがなのでしょうか。

＜梅津係長＞

可能だというふうに思います。各森林室の方でどういったデータ管理されてるのかは道有林課でも把握してなかったものですから、各森林室の状況を聞きながら、どういったデータ整備して進めていくかっていうのも決めてくことにはなるかと思います。

ＣＳＶデータにしてすぐ提供するというのができなければ、直近の令和3年度調査箇所から、ＣＳＶの入力形式でデータ整理することはできると思っています。

＜山形氏＞

何か過去のものをデータ化するというのは人力でやらなければならない部分なので、ご負担がかかるのかなっていうふうに思うんです。であれば、次の業務から、ガラッと変えてしまって、やってしまった方が業務の効率化というか、きっと各森林室も楽になる部分というのも出てくるのかなって思います。

＜喜多主査＞

先ほど言っていた後志森林室のデータっていうのが今画面にちょっと映しているこれなんですが、濁度調査自体が、平成16年から始まっているので、もう15年とか16年前から始まってるんです。

その時からホームページで公開しているとして、そしてそれがずっと延々と続いているのであれば、当時が一太郎だったら、今も一太郎でやっているっていうのはわからなくもないかなと。

先ほど後志森林室のCSVデータは、実はこれは私が作ったデータで、私がオープンデータにしたデータなのですが、全部手入力しました。でも1日もかかんないです。そんな大した量じゃないので。

＜山形氏＞

むしろ、濱原さんがデータ解析したやつで打ち込んだデータってないのですか？それをCSVで提供してあげたほうが楽なのかなと思ったんですけど。

＜濱原氏＞

残念ながらありません。基本的にＰＤＦで公開されていてもここ直近2年ぐらいのデータしかないという状態ですので。

過去のデータについて手入力が負担になって難しいのであれば、何とかＰＤＦだけでも公開していただければと思います。

＜山形氏＞

先ほど言ったＣＳＶの部分については、これから先絶対そっちの方が楽っていうか、わざわざ時刻のここの部分に10時18分って書かなければならないということもないと思うので、エクセルでＣＳＶを作ってしまった方が、僕がこの業務担当するなら楽だなあって思ったので、そういう形でやっていく。

そうしましたら、もうこのデータにつきましては、次年度以降、形はどうあれ、原則ＣＳＶで公開していっていただき、過去のものにつきましては、データがあるようだったら、ＰＤＦのスキャンでもいいので、紙のスキャンでもいいから、まずは、どこかに掲載していると幸せになれる人がいるというのであれば、情報として公開していただけると。

僕もデータは見てみると意外に面白いデータだなあと思って、ちょっとご負担かもしれないんですけども、ぜひお願いできればと思うのですが、いかがでしょう。

＜北海道オープンデータ推進協議会　理事　林理事（以下「林理事」）＞

ご説明ありがとうございます。北海道オープンデータ推進協議会の林です。お話を伺っていて、まずオープンデータ公開することによって意味があるのかなっていうとこで、データの利用者がハッピーになることでデータの登録者もハッピーでなきゃいけないと思うんですよね。

2度手間、3度手間することになって疲弊してしまうのは結構大変かなというふうに思っていて、データの利用側としては、我々エンドユーザーとしては、我々、実際に水を体内に入れる我々が関わってくるところなので、ぜひ、このデータを活用して水を綺麗にするっていう取り組みへの役に立てればいいなというふうに思いました。

もう１つ、私にちょっと知見がちょっと足りなくて申し訳ないんですけども、こういった情報って、雨が降ったりとかして水が濁るということであれば、何か災害データにも横展開できないのかなっていう。課とかその局が違うかもしれないんですけども、そういった連携っていうのを取るのもありなのかなというふうに思いました。

もう１つデータの入力をするという部分ですね、データを出せ出せっていうのも、くれくれっていうのも、なるべくそういった議論にならないでオープンデータがスムーズに公開されれば、これも煩わしいというか手間もかからずに。いろいろ課によって、おそらくシステムが違ったり入力のフォーマットとかも違ったりする上で、道庁さんの方で、もし可能であれば、いろんな課とか局とかが入力している状況の把握をしていただくことによって、どうやってデータを入力しているのか、１つのシステムを変えてあげればもう何度も入力しなくていい、編集もしなくていい、データの利活用がいろいろな展開ができる形で整備ができたら、素敵なのかなっていうふうに思いました。

最終的にはですね、これは人間で調査していると思うんですけども、今いろいろセンサーも、モバイル通信網も、大分枯れてきている状況なので、そういったデバイスを、各地域に置いて自動的にデータが入力されるような、そういったことをすれば雨の日とか危険な時にでも、危険な目にあわなくても、森のくまさんとかに会わなくても、センサーとかが必然的に毎日、タイムスパンもさっきデータ見せていただいたんですけども1ヶ月スパンだったので、欲しい時にデータがとれるような仕組みがあればいいかなと。

じゃあどうすればそういうセンサーとか、導入すればいいんだろう、お高いんでしょうとかっていうのもあると思うんですけど、今のラズベリーパイとか安いデバイスもあったりとか、通信網もあったりするので、そういったものを使えば、もしかしたら今まで苦労されている部分を、そういったデバイスを使うことによって危険な目にも合わず、仕事も減って、他の仕事にも注力できるとか、そういったことできるのかなっていうふうに思いました。

＜酪農学園大学　教授　金子教授（以下「金子教授」）＞

酪農学園大学の金子です。

これはどなたに聞いたらいいのかわかんないですけど、この業務自体は、これは道の直轄の業務なのですか。それとも国の、なんか法律に基づいたものなのでしょうか。

＜梅津係長＞

道独自ですね。

＜金子教授＞

ということは、他の都道府県では全くこういうのはやられてない？

＜梅津係長＞

ちょっとそこまでは把握してないのですけど、道有林では平成16年から行っています。

＜金子教授＞

ありがとうございます。濱原さんの方では、これ他の都道府県ですとか見たことある？

＜濱原氏＞

調べてないのでわかりません。

＜金子教授＞

はい、実はですね僕の方で、各県のレッドデータっていういわゆる絶滅危惧種のリストが公表されるんですけど、バラバラなんですよ、県ごとに。ですから、ＰＤＦで出しているところもあるし、ＣＳＶとかエクセルで出しているとこもあるので、それを集約してきて全部整理を1回して、日本の地図を都道府県ごとのマップを作るっていうようなことをやっていて、すごい無駄なんですよね。関係者にも言っているんですけど全然統一してくれないんです。だからそういうようなことがあれば全国標準っていう形にしてもらうのが一番いいなと思ったんですけど、道独自であれば、道の考え方でやればいいかなというふうに思うんです。後志がCSVであるのであれば、それをスタンダードにして、フォーマットも合わせて、他のところでもやったほうがいいかなっていうことが１つ。

それと多分振興局ごとにデータを作成しても、またマージしたりするのも大変じゃないかなっていう気もするんですけど、それはやっぱり全道一括で一律で1つのファイルを作ってオープンデータとして公開するとか、そういう使い勝手のいいような形にされた方がいいのかなというふうに思いました。

あとオープンデータは使う人は、使うだけ使って、いわゆるフリーライダーっていうんですか、ただ使ってそれで何か報告書書いて終わりっていう人も結構多いんじゃないかと思うんですけど、やっぱりそこは使ったら戻すっていう、解析結果をまたオープンデータとして入れてあげると。だからそういういいサイクルができ上がるような形でなっていけばいいのかなというふうに思いました。以上です。

＜北海道オープンデータ推進協議会　理事　森理事（以下「森理事」＞

森です。よろしくお願いします。いくつか空気も読まずに、歴史的背景も全然無視してちょっとお話させていただきたいと思うんですけど、先ほど申し上げた歴史的背景は無視して、行政さんなのできっと縦割りなんだろうなと各自治体ごとに。

となると、データ取りまとめるので多分きっと道さんしかないかなと思ってるので、横串にもデータ取りまとめるんであればもう大変申し訳ないんですけど、北海道さんお願いしますしかきっとないと思うんですよね。これ森町の人が北海道のデータ集めてとか、なかなかならないと思うので、そこはもう役目として、お願いしたいというのが我々の意思の１つです。

あと、すごくすばらしいプレゼンですね、データの有用性だとか必要性とこれは重々私も承知しました。ただ、オープンデータすることに対してすごく大事なことなんですけど、そこまで理由なくてもいいのかなってちょっと思ったりするんですよね。出しておけば、必要な人が必要なことをきっと使うであろうとのいうところで、例えば市民の方が1個オープンデータにしてくれっていう課題に対して、こういう資料を作るのが大変だと思うんですよね。敷居が高過ぎるというところで、もう少しやっぱり敷居を下げるべきっていうのは、１つあるかなというふうに思っています。

冒頭お話させていただいた道の方が取りまとめるべきっていうお話させていただいたんですけど、私そんなに難しいことないかなと思うんですよね。ＥＸＣＥＬの方、統一されたフォーマットを渡してこれの通り入力してねって自治体さんにお願いすればいいだけなのかなと。その中で今、それができない課題とか問題点ってあったりするんですかね？

＜梅津係長＞

おそらくないんですけど、平成16年に道有林の方で河川水濁度調査要領というのを定めまして、そのルールに基づいて各森林室でやっているわけなんですけど、どこまでのデータがちょっと保管されているのかどうか、その辺がちょっと心配だなと。

ただ、そのデータベースを作る上では、調査票さえあれば、先ほどのデータの内容であればさほど時間かからずできるのかなと個人的には思っております。

＜森理事＞

きっと我々も過去分はしょうがない「ドンマイ」みたいなところがあると思うので、未来分に対しての実行を検討いただければというのと、あと数値化されたデータというのがやっぱり有用かなと思いますので、ＰＤＦでも公開しないよりはいいと思うんですが、なるべくエクセルでも構いませんし、その辺、道の方が音頭とっていただければ、さらに、より良くなっていくかなというふうに思っております。ありがとうございます。

＜山形氏＞

このデータにつきましては、とてももう前向きでいらっしゃるので、皆さん、よろしくお願いしますっていうこととともにですね、先生も仰ってましたが、これから先フォーマットを作っていく、とりあえずは、後志のものがあるのであれば、そのフォーマットでやればいいのかなというふうには思うんですが、あるのかどうかわかんないですけど、河川にユニークな識別子があるのかとか、例えば、鳥崎川であれば、01－0001だとか、そういう何かユニークな番号があるのであれば、本当はきっとそういうのも入れてあげると全国統一だとかも簡単になっていくでしょう。きっと濁度っていう専門的なものなので、ある程度語彙の部分についても、項目名についても、大体決まってくるのかなとは思うのですが、その辺とかも少しまとめていって、こういうフォーマットで北海道はやっていますよというふうに大きく出していくことによってですね、他の都道府県さんも追随していくっていうか、北海道でこのフォーマットで出しているんだったら、そもそもこれをベースにして共通化していかないかとか、そういうメリットもあるのかなっていうふうに思います。

全国的にこれちょっと調べてみる限りだと、全国的にも少しは行われているので、逆に北海道が先にこう声を上げて作ることによって、後から楽になるっていうか、むしろですね、そういうこともありえるのかなというふうに思いますので、ちょっと前向きに検討していただければなというふうに思います。

＜喜多主査＞

一つだけ情報提供として、ご存じかどうかはわからないんですが、今情報政策課の方でキントーンっていう、いわゆるフォームでデータを入力してそれを集約して、例えばアンケート調査とか、あとなんか報告ものとかをまとめていろいろできるみたいな便利なやつを、導入しようとしてるところなので、なんかそういうのももし本格導入になった時には使っていくと面白いかなと思います。

＜山形氏＞

そうですね。その辺は、僕もちょっとエクセルに依存することをやめてしまって、そういうフォームを使っていくってのはすごくいいのかなと思いますので、ぜひ情報政策課の方でも、担当課の方にですね、ご協力していただいてもらえれば、みんなが楽になるのかなというふうに思います。

それではちょっと早いですが、濱原さんの方からは特にございませんでしょうか。

そうしましたら、要望第1については、ここで一度終了したいと思います。皆さんお疲れ様でした。